

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	橋本 剛
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度は、初めて担当する講座で手探りの部分もあったが、数多くの「当事者」の声を聞きながら、大学生としてふさわしい知識を身につけられるよう、プログラムを構成した。高校の学習理解到達度試験は実施しないこととした。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

自分と大学を知る（大学の歴史、大学の各学科コースでの取組事例）、地域を知る、世界を知る、社会を知る。というテーマで、授業を組み立てた。高校の学習理解到達度試験を減らした分に、社会を俯瞰して把握する力を育成する授業を組み入れた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

地域を知るプログラムには、鈴木史朗長崎市長にお越しいただいて長崎の今後について話をしてもらった。世界を知るプログラムには日経BP社出身の佐々木大Axis県庁坂校校長、社会を知るプログラムには、河野銀子九州大学教授や県の消費者センター代表をお願いしたりした。また、後期の「税と社会保障」では、税金を担当する阿部望長崎県議会議員にお越しいただいて、学長との対談を行った。また、九州農政局の若手職員によるプレゼンを行った。課題としては、それぞれの狙いを明確にすること、漫然と引き継いでいる科目の存在などである。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
初年次セミナー	24S	必修	27	92.1	21	75.0%	7	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	24L	必修	13	89.0	5	38.5%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	24Y	必修	62	88.1	19	30.6%	42	67.7%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
初年次セミナー	24S	4.3	4.2	4.2	3.8	16.8分	4.2
初年次セミナー	24L	4.2	4.4	4.2	4.2	21.8分	4.3
初年次セミナー	24Y	4.4	4.5	4.5	3.6	22.9分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブ・ラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては、SDGsの授業について、一般社団法人長崎SDGs機構の代表理事らにお越しいただいて、実施した。また、オフィスアワーについては、学長のオフィスアワーで対応した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度においては、前期と後期で「初年次セミナーA」と「初年次セミナーB」となることから、両方において、冒頭の1コマの半分を使って「大学を知る」について触れることとする。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	太田 智子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

基礎学力と専門知識および技術の向上にむけて支援する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

基礎学力と専門知識および技術の向上にむけて支援する。
 スモールステップによって学生が学習に対して自信が持てるような支援を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

レポートの作成例を示し、項目ごとに細かな説明を行った。
 実習では前期よりも示範を増やし、視覚から情報を伝えることで理解が深まるようにした。また、重要な技術は必ず全員が経験できるように配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

レシピの書き方が上達し、学外実習等で提出できるレベルに一步近づいた。
 1年生では調理技術(包丁技術)の上達がみられた。
 同じ学年でも理解度や技術の差が大きい。どのレベルに合わせればいいかが課題である。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	23S	選択	31	63.8	1	3.2%	2	6.5%	4	12.9%	22	71.0%	1	3.2%	1	3.2%
食品加工学実習	23S	選択	5	81.8	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	23S	選択	32	82.2	5	15.6%	18	56.3%	7	21.9%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	23S	選択	32	78.4	6	18.8%	6	18.8%	15	46.9%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅲ	23S	選択	32	72.1	3	9.4%	7	21.9%	7	21.9%	13	40.6%	2	6.3%	0	0.0%
ゼミナール	23S	必修	9	83.4	2	22.2%	4	44.4%	2	22.2%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅱ	24S	選択	27	72.7	5	17.2%	8	27.6%	7	24.1%	4	13.8%	4	13.8%	1	3.4%
プレゼミナール	24S	必修	27	85.6	14	50.0%	10	35.7%	2	7.1%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.6%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	23S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	23S	5.0	5.0	5.0	4.8	54.0分	5.0
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	23S	*	*	*	*	*	*
調理学実習Ⅲ	23S	4.5	4.4	4.7	3.8	94.7分	4.5
ゼミナール	23S	4.6	4.3	4.7	4.3	80.0分	4.3
調理学実習Ⅱ	24S	4.3	4.1	4.4	3.9	93.8分	4.3
プレゼミナール	24S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特になし

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

知識・技術ともに学生全体のレベルを底上げする。
グループ活動は可能な範囲で少人数制を取り入れ、細かな指導ができるよう配慮する。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	太田 美代
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

○栄養士実力認定試験の結果、A判定43.5%、B判定39.1%、C判定17.4%で、A判定は目標の50%に及ばなかった。短大平均を上回った者は43.5%であった。「給食管理論」においては得点率53.4%で目標の60%には6.6ポイント届かなかった。
 ○栄養教育指導論実習ⅠでC評価者が多かったが、授業評価の自由記述では、本授業の意義を理解して取り組んだことが窺える内容の感想が記されていたので、学生なりに課題に向き合った結果だと受け止めている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者60%以上、及びA認定50%以上を目指す。
 ○1年生に新設科目として国語表現法と基礎数理を設け、専門的な科目の学修のための基礎学力の向上を図る。2年生も「チャレンジタイム」として定期的に過去問にあたり調べ学習を勧めるとともにeラーニングシステムを導入し活用を図る。
 ○後期は、Google Classroomの活用も行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

○1年生の授業ではスライドとワークシートを活用し、まとめて過去問にもあわせて知識の定着を図る。またリアクションペーパーを使って個別対応を行い、学習への意欲を喚起する。
 ○2年生は「チャレンジタイム」での修得度別グループ学習に加え、eラーニングの活用を推進し、主体的な学習を促す。学力に関して心配な学生も多いので、可能な限り個別にきめ細かな対応で支援する。
 ○実習演習の授業においては、グループや個人での自己評価、グループ同士での相互評価を行う場面を設定し、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

○栄養士実力認定試験の結果、A判定50.0%、B判定47.0%、C判定3%で、A判定は目標の50%に及ばなかった。短大平均を上回った者は46.9%であった。「給食管理論」においては得点率52.2%で目標の60%には7.8ポイント届かなかった。
 ○1年生は、「基礎数理」の授業で専門科目で扱う計算の基礎を復習して後期の授業に臨んだので、栄養教育指導論実習Ⅰの献立作成課題での指摘事項が昨年度に比べ少なくなった。
 ○Google Classroomでの授業資料のデータ配信を一部実施することができた。
 ○今年度の1年生は、授業を欠席する学生が散見された。学修に対する意欲を引き出し、主体的に学ぶ姿勢をもつための工夫が必要である。グループ活動のトラブルも気になった。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	23S	選択	31	63.8	1	3.2%	2	6.5%	4	12.9%	22	71.0%	1	3.2%	1	3.2%
食品加工学実習	23S	選択	5	81.8	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	23S	選択	32	82.2	5	15.6%	18	56.3%	7	21.9%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	23S	選択	32	78.4	6	18.8%	6	18.8%	15	46.9%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23S	必修	8	88.1	3	37.5%	5	62.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
応用栄養学実習	24S	選択	27	73.3	4	14.3%	6	21.4%	14	50.0%	2	7.1%	0	0.0%	1	3.6%
栄養教育指導論実習Ⅰ	24S	選択	27	70.4	4	14.3%	4	14.3%	7	25.0%	12	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅰ	24S	選択	27	72.4	0	0.0%	9	32.1%	14	50.0%	4	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	24S	必修	27	85.6	14	50.0%	10	35.7%	2	7.1%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.6%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	23S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	23S	5.0	5.0	5.0	4.8	54.0分	5.0
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	4.6	4.9	4.6	3.4	52.5分	4.3
応用栄養学実習	24S	4.3	4.2	4.3	3.8	66.9分	4.3
栄養教育指導論実習Ⅰ	24S	4.4	3.9	4.4	3.6	131.3分	4.0

給食経営管理論実習 I	24S	4.1	4.2	4.4	3.8	48.8分	4.2
プレゼミナル	24S	*	*	*	*	*	*
*…学生による授業評価アンケート実施対象外							
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。 ・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。 ・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。 							
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）							
3月末で退職のため、次年度の目標・計画については、記載なし。							

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	桑原 真美
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度の公衆栄養学は、成績評価においてC評価の学生が25%となり昨年度の60%から大幅に減少した。授業アンケートの自由記述欄にKENSが学習の役に立ったとの意見も多数あり、一定の効果が得られたものと推測できる。食品衛生学実験は、授業評価アンケートにおける学生の理解度が4.3であり、目標の4.5以上には届かなかった。学生に実験ノートを作らせたが、記載内容が不十分であり、実験内容の整理ができていないことも要因であると考えられる。また、同実験において不合格者が1名となった。この学生はレポートの未提出が多数あったため合格点に届かなかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

KENSを1年生の開講科目でも利用できるように調整する。
食品衛生学実験においては、実験ノートの作り方の指導を徹底し学生の理解度向上に努める。また、提出物の期限内提出の指導を徹底し、不合格者が発生しないように努める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

KENSを2年次開講の公衆栄養のみでなく、栄養学Ⅱにおいても理解度確認のため利用する。
食品衛生学実験においては実験内容の実験ノートへの記録を徹底する。提出物についてのルールを明確にし、指導を徹底する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は栄養学Ⅱにおいて理解度確認のためにKENSを利用した。しかしながら、学生による授業評価アンケートにおいては理解度が3.8と低い結果となった。食品衛生学実験においても理解度が3.6と大幅に低くなった。成績分布をみると両科目ともC以下は5、6名であるため、学生の自己評価が低い傾向にあることが考えられた。食品衛生学実験においては、レポートの提出遅れ、未提出が多かった学生3名がF評価となり単位未修得となった。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	23S	選択	31	63.8	1	3.2%	2	6.5%	4	12.9%	22	71.0%	1	3.2%	1	3.2%
食品加工学実習	23S	選択	5	81.8	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公衆栄養学	23S	必修	33	75.3	5	15.2%	7	21.2%	10	30.3%	11	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	23S	選択	32	82.2	5	15.6%	18	56.3%	7	21.9%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	23S	選択	32	78.4	6	18.8%	6	18.8%	15	46.9%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23S	必修	8	92.8	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学実験	24S	選択	27	72.9	7	24.1%	9	31.0%	5	17.2%	3	10.3%	3	10.3%	1	3.4%
栄養学Ⅱ(ライフステージと栄養)	24S	選択	27	76.9	6	21.4%	7	25.0%	9	32.1%	5	17.9%	0	0.0%	1	3.6%
プレゼミナール	24S	必修	27	85.6	14	50.0%	10	35.7%	2	7.1%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.6%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	23S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	23S	5.0	5.0	5.0	4.8	54.0分	5.0
公衆栄養学	23S	4.6	4.7	4.5	4.0	66.4分	4.6
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	4.9	4.9	4.6	4.8	56.3分	4.8
食品衛生学実験	24S	4.5	4.5	4.4	3.6	130.4分	4.3
栄養学Ⅱ(ライフステージと栄養)	24S	4.5	4.6	4.5	3.8	51.3分	4.4

プレゼミナール	24S	*	*	*	*	*	*
*…学生による授業評価アンケート実施対象外							
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況							
<p>ゼミナールにて栄養士実力認定試験のための時間を設けている。その他、実験科目においてはアクティブラーニングを実施している。 オフィスアワーについては時間を設けたが、利用する学生はほとんどいなかった。</p>							
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）							
<p>引き続き、食品衛生学実験および栄養学Ⅱの理解度向上に努める。 また、実験科目において不合格者が発生しないための取り組みを実施する。</p>							

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ① 講義科目におけるアクティブラーニングの導入方法の検討
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究 (ゼミナール) の満足度向上。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① アクティブラーニングの導入 (すべての科目において)。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ ゼミナールの満足度向上。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① 講義科目においてアクティブラーニングの導入は難しいので、問題を自主的に解かせる形式を導入。
- ② 定期試験の須臾大形式の変更 (栄養士実力認定試験の問題を解かせるだけでは答えだけを暗記する学生がいるため、各選択肢の問題文を○×問題とした)
- ③ 学外実習総合演習での指導の強化 (問題のある学生を中心に個別指導の強化)
- ④ 各学生に応じた対応や面談の実施。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ① 講義カモにおいて、アクティブラーニング導入は難しい (自主的に勉強する学生 (勉強習慣がある学生) ではないと、アクティブラーニング導入は難しい)
- ② 栄養士実力認定試験の問題の各選択肢を○×問題として解かせる訓練をしたが、全ての学生に効果があるとは言えなかった。栄養士実力認定試験の結果は臨床栄養学は昨年より改善、栄養指導論は昨年より悪化した。
- ③ 今年度の学外実習は、一部の学生を除き学外実習Ⅰ・Ⅱとも実施された。実習先からの評価は昨年より改善したが、複数の実習先から献立作成能力の低さを指摘された。
- ④ 卒業研究の満足度は4.5点 (5点満点) と高い結果となった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	23S	選択	31	63.8	1	3.2%	2	6.5%	4	12.9%	22	71.0%	1	3.2%	1	3.2%
食品加工学実習	23S	選択	5	81.8	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	23S	選択	32	82.2	5	15.6%	18	56.3%	7	21.9%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	23S	選択	32	78.4	6	18.8%	6	18.8%	15	46.9%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23S	必修	8	87.1	4	50.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学Ⅰ (病態の理論)	24S	必修	27	66.9	2	7.1%	7	25.0%	2	7.1%	14	50.0%	2	7.1%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅱ	24S	選択	27	69.0	3	10.7%	5	17.9%	9	32.1%	9	32.1%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	24S	必修	27	85.6	14	50.0%	10	35.7%	2	7.1%	1	3.6%	0	0.0%	1	3.6%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
栄養士スキルアップ特講	23S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	23S	5.0	5.0	5.0	4.8	54.0分	5.0
学外実習総合演習	23S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	23S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23S	4.5	4.5	4.6	4.0	56.3分	4.4
臨床栄養学Ⅰ (病態の理論)	24S	4.3	4.1	4.4	3.6	34.6分	4.2
栄養教育指導論Ⅱ	24S	4.3	4.3	4.4	3.6	31.2分	4.3
プレゼミナール	24S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングに関しては、講義科目では自主的に問題を解かせる形で実施したが、熱心に取り組む学生は成績上位の一部の学生だけだった。（自主的に勉強する習慣がないと、アクティブラーニング導入は難しい）またオフィスアワーに関しては基本的に開いている時間であればいつでも訪問してよい形式で実施した。質問に関しては2年生は学外実習（実習先からの課題対応含む）や定期試験についての相談が多く、1年生に関しては献立作成や定期試験についての相談が多かった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ① 講義科目におけるアクティブラーニングの導入方法を引き続き検討（自主的に勉強する習慣がない学生へのアクティブラーニング実施方法の検討）
- ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ ゼミナールの満足度向上。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	江頭 万里子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

秘書実務1では、授業評価アンケートの結果が、全ての項目において昨年度より下がっていた。昨年度は88.2%が、1年生終了時点で秘書検定2級に合格しており、試験勉強を通して授業内容の基礎知識を有していたと考えられることから、事前学習用の教材をよく理解することができ、反転授業が有効であった可能性がある。今年度は、35%が、秘書検定を受験しなかったことで事前学習用の教材の理解が難しかったのかもしれない。今後は、学生の状況を見て、反転授業を行う単元を選定する必要がある。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

学生の満足度を上げる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

予習のためのワークシートを授業の前の週に配布し、授業日に提出させ、間違っているところは訂正したり、コメントを入れて返却して復習してもらい、授業内容の定着を図った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

秘書実務1では、学生による授業評価アンケートの結果は4.5~4.8であり、全項目で昨年度より高かった。教員の教え方に十分満足できたは、13人中11人、ある程度満足できたは1人、どちらとも言えないは1人であり、教え方については、ほぼ満足を得たと考える。スライドを進める時には、できる限り学生に確認してから進めるように心がけたが、速いと感想を書いた学生がいたので、次年度は一層気をつけていきたい。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー2	23L	必修	19	80.4	8	42.1%	5	26.3%	4	21.1%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	23L	選択	0	80.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ1	23L	選択	7	57.3	7	63.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ2	23L	選択	1	92.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ4	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
秘書実務1	24L	必修	13	87.8	5	38.5%	8	61.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	24L	必修	13	84.4	5	38.5%	6	46.2%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
キャリアアップセミナー2	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ3	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	23L	*	*	*	*	*	*
秘書実務1	24L	4.7	4.8	4.8	4.5	78.5分	4.6
キャリアアップセミナー1	24L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

必要に応じて、ペアワーク、ロールプレイング等のアクティブラーニングを行った。

オフィスアワーは、設定された時間以外にも随時訪問可としていた。訪問内容は、検定に関する質問、授業に関する質問、就職に関する相談等であった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

秘書実務1は今年度で終了し、授業内容の多くは次年度開講されるビジネス実務1に含まれる。ビジネス実務1では、事務職として、自分が実際に働いている姿をイメージできるような授業を組み立てていきたい。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書					氏名		濱口 なぎさ									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1) 「オフィス情報演習」では、学生たちが興味関心を持つような課題を提示することに心がけ、学生たちもこれに応じて能動的に熱心に取り組んでくれた結果、S評価が半数を超えた。学生による授業評価アンケート結果からも、内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲ともに4.9以上となっている。「ビジネス文書作成2」については、S評価は2割程度であり、B評価が3割近くであったが、学生による授業評価アンケート結果からは、内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲ともに4.7以上となっているため問題はないと考えてる。</p> <p>2) 2年生は2名が日商PC検定2級に挑戦し、合格した。1年生は日商PC検定3級に8名が挑戦し全員合格している。日商PC検定は随時実施できるため、いつでも受験できるという甘い考えて、受験時期を先延ばしにする傾向があるため、できるだけ早い時期に挑戦するような意識付けを定期的に行いたい。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、学生自身が考えて課題を解決するような応用的な課題への取り組みを増やし、実践力を強化する。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら知識や技能の定着を図る方法は継続する。</p> <p>2) 2年生が実践型教育プログラムの期間を活用し、計画的に検定上位級へ挑戦し、客観的に自分の実力を確認し向上させることで自信を付けさせたい。1年生の多くが就活が始まる前までに日商PC検定3級に挑戦し、合格できるように授業内外での指導を心がける。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1) 「オフィス情報演習」では今年度特にグループ活動を重視し、充実したイベント企画の立案・予算編成・広報活動に取り組むよう指導を心がけた。検定試験上位級への挑戦を促すための案内を定期的に行った。</p> <p>2) 「ビジネス文書作成2」では、応用的なドキュメント作成を行う課題を多く取り入れ、前期で学んだ知識や技能を応用できる授業になるよう心がけ、例年より早く日商PC検定2級の範囲まで終了した。初回と最終回に学生自身によるスキルチェックを実施し、学生一人ひとりの知識と技能の定着状況を把握するよう努めた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1) 例年休職中の教員が担当していた科目も担当したため、きめ細かな指導が行き届かなかった科目もあったのではと危惧していたが、学生による授業評価アンケートではすべての科目で全体的な満足度が4.5以上となっており、教員の教え方や学生の学修意欲なども高かった。</p> <p>2) 今年度は非常勤教諭に担当していただいたビジネスデータ活用2で全員が日商PC検定(データ活用)3級を受験した。学修奨励奨学金制度の効果もあり、検定受験の指導がしやすくなったが、例年この時期は日商PC検定(文書作成)3級を受験する学生が多かったが、今年度はデータ活用の方に注力したためか、1年生の受験者はゼロに終わった。年度末の調査では2年次早々に受験を希望する学生が多かったため、授業内で引き続き指導助言を行いたい。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オフィス情報演習	23L	必修	19	88.8	10	55.6%	6	33.3%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスプランニング	23L	必修	19	86.3	10	55.6%	5	27.8%	1	5.6%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	23L	必修	19	80.4	8	42.1%	5	26.3%	4	21.1%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	23L	選択	0	80.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ1	23L	選択	7	57.3	7	63.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ2	23L	選択	1	92.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ4	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成2	24L	必修	13	82.8	3	23.1%	5	38.5%	4	30.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	24L	必修	13	84.4	5	38.5%	6	46.2%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	24L	必修	13	90.2	10	76.9%	3	23.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
オフィス情報演習	23L	4.9	4.9	4.9	4.1	97.5分	4.9									
ビジネスプランニング	23L	4.9	4.8	4.8	4.3	61.9分	4.8									

キャリアアップセミナー 2	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ3	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	23L	*	*	*	*	*	*
ビジネス文書作成2	24L	4.8	4.9	4.8	4.2	62.3分	4.8
キャリアアップセミナー 1	24L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	24L	*	*	*	*	*	*
ライフプランニング	24L	4.5	4.4	4.6	4.4	52.5分	4.5
インターンシップ1	24L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	24L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	24L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「オフィス情報演習」ではグループディスカッションとプレゼンテーションを行った。「ビジネス文書作成2」では、スキルチェックシートを活用し、学生の習熟度把握に努めた。ゼミナールでは、毎時間グループディスカッションを行った。
 オフィスアワーの実施状況は、指定した時間以外に訪問してくる学生が多かったが、欠席した学生のフォローや就職活動への助言、個人的な相談などの対応を行った。 ■

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- 1) Google Classroomを活用した課題の提出や個別指導などを行い、学生の理解度の早期の把握やタイミングの良いフォローに繋げる。
- 2) 学修奨励奨学金制度のメリットを広報し、学生たちが積極的に検定に挑戦するような働きかけを行い、知識と技能のスキルアップを客観的に認識し、達成感を得られるよう努める。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	森 弘行
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・基礎学力の二極化
 ・論理的思考力、J 応用力不足

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・数的理解では、算数を苦手としている学生が多ことから、小数点の移動や単位、文章問題の読解など、基礎的な能力を身につける。
 ・ウェブデザインでは、つまづいた際に回復できず、

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・数的理解では、日常生活に必要な単位を扱う時間を増やした。
 ・ウェブデザインの教科書を新バージョン対応版に変更。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

・数的理解の学生の満足度は若干上昇。
 ・ウェブデザインの教科書変更の効果か、成績評価にあまり変化はないものの、学生の満足度は若干上昇。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスプランニング	23L	必修	19	86.3	10	55.6%	5	27.8%	1	5.6%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	23L	必修	19	80.4	8	42.1%	5	26.3%	4	21.1%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	23L	選択	0	80.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
介護・救急法	23L	選択	8	83.8	7	87.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%
インターンシップ1	23L	選択	7	57.3	7	63.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ2	23L	選択	1	92.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ3	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ4	23L	選択	0	92.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
数的理解	24L	必修	13	67.5	1	7.1%	1	7.1%	2	14.3%	10	71.4%	0	0.0%	0	0.0%
ウェブデザイン	24L	必修	13	82.2	5	38.5%	2	15.4%	4	30.8%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	24L	必修	13	84.4	5	38.5%	6	46.2%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	24L	必修	13	90.2	10	76.9%	3	23.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
ビジネスプランニング	23L	4.9	4.8	4.8	4.3	61.9分	4.8
キャリアアップセミナー2	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*

インターンシップ3	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	23L	*	*	*	*	*	*
数的理解	24L	4.0	3.8	4.0	3.6	62.7分	3.9
ウェブデザイン	24L	4.3	4.0	4.3	3.8	87.5分	4.3
キャリアアップセミナー1	24L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	24L	*	*	*	*	*	*
ライフプランニング	24L	4.5	4.4	4.6	4.4	52.5分	4.5
インターンシップ1	24L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	24L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	24L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワーの利用はないが、時間外でも柔軟に対応。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ 数的理解でグループ学習を試行。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	荒木 正平
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. 講義形式の各科目のうち、「社会福祉」については今年度も大きな内容変更なく実施することができ、アンケート結果からも大きな問題は確認されなかった。「社会福祉概論」については、前述の通り、やや構成を変更し、学生の主体性を引き出すようなレポート課題の作成への取り組みの機会を提供したが、これについても学びを深める機会となったといった主旨の感想もえられた。演習系科目の「社会的養護Ⅱ」についても、今年度もグループ演習の実施ができ、学生評価もおおむね良好であった。各科目とも、引き続き、講義内容の充実と個別理解度のバランスを見ながら、よりよい実践につなげていきたい。

2. 前述のとおり、特に今年とは「保育実習Ⅲ」の体制整備を中心課題として取り組んできたが、選択学生の支援が適切に実施できた。その他実習関係に関して言えば、資料（掲示用のパワーポイント、配付用のレジュメ）のわかりやすさを工夫することで、学生の実習への取り組みがよりスムーズになるよう改善した。個別対応の充実は今後も課題となる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上
現在アクティブラーニングを実施している科目についても、その内容や学習効果の再検討など実施しながら、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。

2. 「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」選択学生への対応の充実と、実習指導内容の充実と連携強化
①「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」の担当教員に変更に伴う体制整備と情報共有をスムーズに行う。あわせて、②各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教職員間および施設職員との連携の強化、③学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。以上を目標とする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. 講義形式の科目（社会福祉、社会福祉概論）では、前年度に引き続き教科書を中心に知識の定着を図った。学生が興味を持てる映像資料などの視聴覚教材を効果的に活用した。社会福祉概論については、生活創造学科の特性や目標設定に配慮した資料の作成やミニテストの実施などを行い、一定の評価を得られた。また、学生自身が問題設定をして能動的に学ぶ個人演習を今年度も取り入れることで、学習の深化をはかった。演習科目の社会的養護Ⅱでは、今年度も、学生の主体性・能動性を引き出すようなグループ活動を取り入れた。里親育成講座においては、今年度は里子当事者の語りを聞く機会を得ることができ、これまでと異なる視点からの語りに学生たちも関心をもって学習を進めることができた。

2. 「保育実習Ⅲ」選択学生は、今年度選択学生不在であったが、学内外の関係者と連携しながらさらなる支援体制の構築を行った。その他、学生毎の理解度や課題に対応するための機会の設定も各教員と連携しながら実践につなげられた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 講義形式の各科目のうち、「社会福祉」については今年度も大きな内容変更なく実施することができ、アンケート結果からも大きな問題は確認されなかった。「社会福祉概論」については、前年度に続き今年度も、学生の主体性を引き出すようなレポート課題の作成への取り組みの機会を提供したが、これについても学びを深める機会となった。演習系科目の「社会的養護Ⅱ」についても、今年度もグループ演習の実施ができ、学生評価も良好であった。各科目とも、引き続き、講義内容の充実と個別理解度のバランスを見ながら、よりよい実践につなげていきたい。

2. 前述のとおり、特に今年とは「保育実習Ⅲ」の体制整備を中心課題として取り組んだ。その他実習関係に関して言えば、学内外の関係者との連携をより強め、学生の実習への取り組みがより充実したものとなるよう改善した。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会福祉概論	23S	選択	32	78.5	3	9.4%	12	37.5%	10	31.3%	7	21.9%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉	23Y	選択	67	84.7	22	33.8%	25	38.5%	16	24.6%	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅲ	23Y	選択	1	87.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	5	90.4	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉概論	24L	選択	2	87.0	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護Ⅱ	24Y	選択	62	83.0	14	22.6%	29	46.8%	17	27.4%	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
社会福祉概論	23S	4.4	4.5	4.5	4.0	50.6分	4.5

社会福祉	23Y	4.6	4.7	4.6	3.5	51.8分	4.6
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅲ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
社会福祉概論	24L	4.5	5.0	4.5	4.5	45.0分	4.5
社会的養護Ⅱ	24Y	4.7	4.7	4.7	3.8	37.1分	4.7
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉

今年度は、前年度に続きアクティブラーニングの実施範囲を広くとって実施し内容も充実したものとなった。

〈オフィスアワーについて〉

効果的に活用できている。学生への周知徹底についても、研究室前の掲示などを実施した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上

現在アクティブラーニングを実施している科目についても、その内容や学習効果の再検討など実施しながら、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	小槻 智彩
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度担当科目なし

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

受講生の興味・関心、理解度を把握し、それらに合わせた授業を実施する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

専門教育科目では、以下の活動を行った。
 ・授業内容の理解を深め、問題意識を高めることを目的として、定期的にグループディスカッションを実施した。
 ・上記と合わせて、受講生の興味・関心を高め、保育実践との繋がりを強めるために、事例紹介や受講生の実習経験の共有を取り入れた。
 ・受講生の理解度や授業内容の難易度を把握するため、各授業回でミニツツペーパーの提出を求めた。
 ・一部の科目では、受講生の自学自習を促し、授業内容の定着を図るため、復習問題を作成して配布した。

全科目に共通して以下の活動を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成果
 ・授業評価アンケートの結果をふまえると、総じて受講生の興味・関心に合った適切なレベルの授業を実施でき、受講生の全体的な満足度に繋がったと考えられる。また、受講生の学習環境を整えられるよう努めたことも、全体的な満足度に繋がったと考えられる。
 ・事前課題やレポートを定期的に課したことにより、授業外の学修が促進されたと考えられる。
 ・授業評価アンケートの自由記述から、グループディスカッションの実施が、理解を深めることや他者の意見を通した新たな気づきを得ることに効果的であったと考えられる。

課題
 ・授業内容の理解度には受講生間でばらつきがあるため、授業内容や実施方法を検討する必要がある。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
心理学	23S	選択	27	81.6	5	18.5%	14	51.9%	4	14.8%	4	14.8%	0	0.0%	0	0.0%
心理学	23L	選択	16	89.8	10	66.7%	2	13.3%	2	13.3%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの理解と援助	23Y	選択	67	88.7	51	78.5%	6	9.2%	2	3.1%	6	9.2%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	3	93.5	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと人間関係	24Y	必修	62	83.9	19	30.6%	24	38.7%	16	25.8%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
心理学	23S	4.4	4.4	4.6	3.7	74.4分	4.3
心理学	23L	4.6	4.8	4.8	4.1	83.1分	4.7
子どもの理解と援助	23Y	4.5	4.4	4.5	3.6	40.6分	4.4
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*

子どもと人間関係	24Y	4.6	4.6	4.6	3.7	41.1分	4.6
保育実習指導 I	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 I	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング

専門教育科目：授業内容の理解を深め、問題意識を高めることを目的として、定期的にグループディスカッションを実施した。ディスカッションでは、保育実践との関連を強めるために、保育事例や受講生の実習経験を扱った。
 教養科目：受講生が自身の日常生活と関連付けながら理解できるよう、各回の授業で体験型教材を活用した。
 全科目：受講生が授業内容を振り返ることで理解を深められるよう、毎回の授業でミニツツペーパーの提出を求めた。ミニツツペーパーに記入された質問には、次回の授業で全体に向けて回答した。

オフィスアワー

週に1度、オフィスアワーを実施した。オフィスアワー以外にも受講生の質問や相談に随時応じた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標

・今年度の活動内容および方法を継続し、受講生が満足できる授業を行う。

改善計画

・今年度の授業評価アンケートの自由記述を参考にし、授業内容や実施方法の改善を行う。
 ・受講生の事前知識や理解度の違いを考慮し、難易度の異なる課題を設定するなど、受講生の習熟度に応じた授業を実施できるよう工夫する。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	織田 芳人
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①保育方法論 (ICT活用分)
 来年度は授業科目名を「保育とICT活用」に変更し、Wordでスマホでもすぐ利用できるような実習日誌及び保育指導案の様式を作成する、PowerPointでデジタル紙芝居を制作する、等を検討する。
 ②生活とアート
 次年度は15回から8回に授業回数が減るけれども、実技を3回程度実施して、受講生の積極的取り組みにつなげていくこととする。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①保育とICT活用
 PCによる実践として、Wordでの実習日誌及び保育指導案の作成、PowerPointでデジタル紙芝居の制作を行う。保育におけるICT活用について、事例を挙げて解説する。
 ②生活とアート
 講義内容に関わる実技を3回程度実施し、受講生がより積極的に取り組めるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①保育とICT活用
 PCによる実践として、Wordでの「園だより」の作成、PowerPointでのデジタル紙芝居の制作を行う。保育におけるICT活用について、事例を挙げて解説する。
 ②生活とアート
 講義内容に関連付けた制作 (演習) を2回行い、受講生が講義で得た知識を活かして演習に取り組めるようにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育とICT活用
 「園だより」作成はかなりスムーズに進んだので、Word文書作成のスキルをより深められたと考えられる。PowerPointによるデジタル紙芝居制作は、イラスト制作をベースにしているが、そのスキルが十分でない場合は手描きの絵をスキャナで取り込む方法で実施した。ICT活用の知識習得ある程度できたようである。受講生の大半がPCを常時扱える環境にはないので、PC操作の習熟度の差を縮小することはかなり難しい。
 ②生活とアート
 講義と演習 (制作) を関連付けたことにより、受講生がかなり積極的に授業に取り組めたと考えられる。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活とアート	23S	選択	5	72.4	0	0.0%	2	40.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活とアート	23L	選択	2	72.5	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育とICT活用	24Y	選択	62	81.7	11	17.7%	32	51.6%	14	22.6%	5	8.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活とアート	23S	4.4	4.2	4.4	3.4	30.0分	4.4
生活とアート	23L	5.0	5.0	4.5	4.5	75.0分	5.0
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
保育とICT活用	24Y	4.5	4.3	4.6	3.8	38.6分	4.5
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「保育とICT活用」や「生活とアート」での演習場面になると、学生間での学び合いが自然発生的に行われていた。学生が各自の都合で、設定したオフィスアワーとはまったく関係なく、予約なしに尋ねてきている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「保育とICT活用」では、

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	中澤 伸元
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

前期は自主性が乏しく消極的であったが、後期に入り意識がガラッと変わり、全ての課題に対し興味関心を持ちはじめ、自らの可能性を發揮した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

前期のスタートが遅かったので、全ての課題について、100点満点からのスタートを徹底する。
また、既に答えを持っているを当たり前にし、自己肯定感を持ち、自作自演、すべて自分次第を徹底し、コンフォートゾーンのゴールに挑戦する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

授業を通して五感である、視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚の訓練を徹底し、感情を育てる。
すべての課題にウキウキワクワク取り組み主体的に行動し、学ぶことを身につける。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

高校まで感覚を身につけられない授業なので、取り組み姿勢のイメージ、行動に時間がかかる。
慣れるに従ってコツを掴み、自分なりの方法を見つけ出しながら成果に結べることができた。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール	23Y	必修	0	81.7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	23Y	選択	2	91.0	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ボイストレーニング (うた表現)	24Y	選択	62	79.7	10	16.1%	22	35.5%	27	43.5%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
音楽演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ボイストレーニング (うた表現)	24Y	4.4	4.3	4.5	3.7	22.8分	4.4

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業全体がアクティブラーニングであり、一年間で学生の考え方も行動も大きく変わった。
出来事は自分が変わる為に体験して考えたためのもの、その出来事は自分に与えられた問題集であると徹底した指導が良かったと思う。
学生も少ない為コミュニケーションもしっかり取れたのが良かった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

今年は10の課題を作ったので、それを目標に楽しみながら、ウキウキワクワク授業に徹する。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・選択科目となり学生の選択人数がとても気になっていたが1年次の「保育と音楽表現」でも2年次で行う授業内容に繋がる方法を取り入れた。手遊びやその導入、子どもの好きな歌など。また保育の観点から音楽の意識を高めるようにも努めた。
- ・人の前に立つ事に緊張感、羞恥心等、かなりの抵抗があるため、先生役として毎回3人その他は子ども役として「朝の模擬お集まり会」と称しての取り組みをした。以前より行っていたこの取り組みに至っては笑顔を絶やさず元気に子どもへの声掛けや子どもの声を拾う事に重きをおき、子ども役の学生達は子どもの心理状況を考慮しての応答をすることがねらいである。表情、応答の仕方、コミュニケーション力等の問題、どれを取っても保育者として必要不可欠であるが、実習先での実習生としてこれらの基本力を養わせたい考えが強かった。つまりその事は子どものための音楽表現にも大きな影響を与える事となり、心の育みから音楽に精通する意味も念頭に持ってもらいたい授業とした。
- ・子どもの大好きな手遊びに於いては既存の物のみではなく教員独自で作成した曲を多方面からの子どもが興味を持つ題材をテーマにしてグループ活動として「世界にたった一つの手遊び歌」を作り発表し合った事で学生が手遊び歌に対する楽しみ方を強化できた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識しながら指導する。
- ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
- ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- ・人の前に出る事への羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- ・言葉や感情や場を考慮して指導する。
- ・子どもが大好きな歌、手遊び歌の楽しさ面白さを実感させたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・学生一人ひとりの個性を早く見極め、普段から声掛けを心掛けた。
- ・保育者としてだけではなく、社会人としての必要な常識を踏まえながら授業を進行させた。特に笑顔ある元気な挨拶と言葉遣い、返答の仕方。
- ・メンタル面強化の励みの言葉かけをした。
- ・音楽を奏でられる喜びや楽しみを感じてもらうために、歌詞の意味やイメージを引き出せるためのペーパーと小道具、小打楽器を使って授業展開した。
- ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき、次のステップに活かせる助言と指導を行った。
- ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を緩和させながら向き合う授業となった。しかし、一番緊張する人前での歌唱には羞恥心と自身のなさにかなりの時間を要するため、メンタル的な強さの積み重ねと勇気と言う積極性の積み重ね、自分の成果を認め受け入れる事にも根気よく焦らず指導をした。ゼミでは発表近くになって特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたのではと考える。しかしながら指示待ちの学生が非常に多く気付いて行動すべき事へのプロセスが欠落していたため指導の在り方に今後工夫が必要である事を痛感した。コロナからの影響が表情を持って歌う事、口を大きく開けてしっかり動かしての歌唱法、また歌詞の意味やイメージの大切さを指導しても授業内での意識のみとなり各自での練習に繋がっていない事も大きな課題点であると再認識した。まずは学生が授業で出した課題に取り組みず次の授業を平気で受講する事に対してどのような指導をすべきなのか今後は今まで以上に試行錯誤しながら指導する事を第一と考えている。一人ひとりが自分の声にコンプレックスを持たず個性として受け入れながら歌唱力をつけられる方法を指導し歌うことへの楽しさを感じられる授業としていく事を今後も継続する。発声法の上達だけでは曲を表現できない事を認識させて歌詞読みから思いや考えをイメージできる事の重要性をさらに強化する。学生達は歌う事が好きで知っている曲は勿論初めての曲にも興味を持って受講していたのは良かった点と言える。それに関しては選曲も良かったと考える。まだ緊張感を抱き控えめに成りがちである事や自分を表現する事が苦手な学生が多くなったため声かけと指導には威圧感なく行う事が今年度も課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・歌唱・手あそび歌授業を迎える学生に対してどのような指導が練習継続の強化に繋がるかは益々の課題である。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの歌と伴奏法	23Y	選択	63	84.3	9	14.3%	48	76.2%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	8	88.4	4	50.0%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	23Y	選択	7	86.6	4	57.1%	0	0.0%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現b	24Y	選択	62	80.1	3	4.8%	37	59.7%	19	30.6%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	23Y	4.8	4.8	4.7	3.6	90.6分	4.8
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
音楽演習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育と音楽表現b	24Y	4.8	4.7	4.8	4.0	82.1分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら距離感を縮めて相談にのっている。結果悩みを克服したい一心かその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞きたい。学生の悩みの負担を軽減できながら日常生活、学校生活に活気ある思いを持って日々過ごせるよう共に考えながらも、教員としての慎重な助言、心あるある助言に気を配りたい。

・ゼミナールでは代々の卒業したゼミナール生が自ら後輩達の現況を知りたく(毎年恒例となっている)授業及び授業外での活動にも来てくれ、指導者である教員がセッティングをし打ち合わせを兼ねてアドバイスをしてくれた事が前年度よりかなり多かった。ゼミナールに於ける悩みのみならず就職先の心配にも相談にのってくれ繋がり信頼関係を築いて今後も関係性を継続できる連絡先の交換や、先輩に対する常識ある行動も大きな成長の要因となった。今後も継続していく。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)

・子どもだけではなくどんな方に対しても明るく笑顔ある元気な挨拶や返答ができるよう、教員自らが学生がすべく挨拶の仕方等を授業始めに行う

・自分の声にコンプレックスを持っている学生、地声・ミックスヴォイス・ファルセットの出し方や何の音からチェンジすれば良いかは各々違うため時間をかけながらその学生に見合った歌唱技術を指導する。

・増加してきた音程が取れない学生、ピアノの音と歌っている音の違いがわからない学生への等の基本的な指導にはかなり時間を要する事となるが、一人でも克服しやすい練習法を指導する。

・自身の声は個性であり勇気を持って出す事へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化する。

・学生一人ひとりの性格を早く把握し各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導する。

・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	野田 章子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

学生の満足度をあげるために、参加型（ディスカッション、プレゼンテーションなど）を授業に取り入れる。パソコンでポスターを作るなどICTを活用する。書き込み型の授業配布プリントで学習をする。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

学生の授業アンケートから、授業の内容や、教え方、学習意欲、全体の満足などはほぼ適当であったと読み取れるが、学生の理解度が少し下がっている。これは、定期テストの取り組みや結果が反映されていると考えられる。学生の理解度をあげるためのサポートが今後の課題である。プレテストなどを活用して小テストや定期テストなどの理解度をあげる。分からない学生には、補修用のプリントをつくるなどをして、個別対応できるようにする

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

昨年と同様に、参加型（ディスカッション、プレゼンテーションなど）を授業に取り入れた。また、テストおよび小テスト、実技テストを課し、知識や理解の習得状況を確認した。さらに、指導案作成や模擬保育も実施し、より実践的な学びを重視した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

内容や、レベル、教え方、意欲に比べ、理解度が低い。これは、定期テストや小テスト、および実技テストに対する学生の満足度が低いためだと考えられる。また、指導案や模擬保育に対する自己評価も低いと感じる。今後は、基本的な知識や技能の習得を支援することを課題としたい。そのうえで、よりレベルの高いことに取り組めるように、段階的に教えることを課題としたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
体育実技	24Y	選択	62	83.6	19	30.6%	29	46.8%	11	17.7%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法Ⅰ	24Y	選択	62	87.9	33	53.2%	17	27.4%	8	12.9%	4	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法Ⅱ	24Y	選択	50	86.2	19	38.0%	29	58.0%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
体育実技	24Y	4.7	4.8	4.9	4.0	34.1分	4.8
領域「健康」の指導法Ⅰ	24Y	4.7	4.7	4.7	3.6	43.6分	4.7
領域「健康」の指導法Ⅱ	24Y	4.7	4.7	4.7	3.9	51.1分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングは、すべての授業で実施できた。
オフィスアワーも実施できた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

基本的な知識や技術の習得を支援する。
段階的な学びになるように、配慮する。

令和 6 年度 後期	授業評価報告書	氏名	福井 昭史
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

前年度は各科目の運営にあたり、学生の能力に対応した指導方法を柔軟に実施することで、ある程度の成果が得られたと考えられる。
 今後も、そのための指導方法、教材の選択など学生の実態に合わせた指導を行うことが課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

学生の実態に合った指導を実施することが目標である。
 音楽の実技を主とする科目の『子どもの歌と伴奏法』、『保育と音楽表現』では、1年次の『保育と音楽表現』では学生の技能に合わせた能力別のクラス分と教材の選択を行い、一人一人の学生に合った指導の展開を行う。2年次の『子どもの歌と伴奏法』でも、学生の実態に合った教材の選択と開発を行う。
 今年度から授業時数が削減された『生活と音楽』では、授業実践を通して指導内容の検討を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

担当授業科目に変更がないことから今年度も昨年度同様、各々の科目において学習内容、指導方法、教材の選択と開発を実施しながら指導に当たる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業評価アンケートの結果を見れば各科目とも学生の学習状況は良好のようである。
 『生活と音楽』は今年度から授業時数が削減されたことから一年間の成果を参考に来年度以降の授業内容の検討がさらに必要である。
 音楽の実技を主とする科目の『子どもの歌と伴奏法』、『保育と音楽表現』では、学生の技能差が課題であることから、能力別のクラス分けなどの授業形態、教材の選択を工夫していたが、さらにそれらを継続して進めていく予定である。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と音楽	23S	選択	12	78.9	1	8.3%	4	33.3%	7	58.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽	23L	選択	4	76.8	0	0.0%	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	23Y	選択	63	84.3	9	14.3%	48	76.2%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現b	24Y	選択	62	80.1	3	4.8%	37	59.7%	19	30.6%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活と音楽	23S	4.8	4.7	4.7	4.2	15.0分	4.8
生活と音楽	23L	5.0	5.0	4.8	3.8		5.0
子どもの歌と伴奏法	23Y	4.8	4.8	4.7	3.6	90.6分	4.8
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
保育と音楽表現b	24Y	4.8	4.7	4.8	4.0	82.1分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

保育実習 I	24Y	*	*	*	*	*	*
*…学生による授業評価アンケート実施対象外							
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況							
<p>各々の科目がピアノなどの楽器の演奏など実技を伴うことから、学生個々が活動することを基本としている。授業時間外であっても必要に応じて指導にあたっている。とくに実習の準備の期間などはその頻度が高い。</p>							
6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）							
<p>一人一人の学生の能力の向上を目標とし各々の科目の学習を展開する。そのために、事前の調査などを活用しクラス編成を工夫すること、実態に合った教材を開発することなどを行う。</p> <p>授業時数が削減された科目については、授業内容、カリキュラムの編成について実践を通して改善を図る。</p>							

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	船勢 肇
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・自由課題は、個人差が大きい。
 ・一人発表の機会を増やし好評を得た。
 ・映像は好評を得た。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(領域言葉の指導法)
 1人発表をおこなう。少人数の場合は附属幼稚園で設定保育をおこなう。

(保育者論)
 自由課題は個人差が大きいので、課題提出の前にグループ発表を入れて、ワンクッション置く。映像は引き続き活用する。あらたな映像資料を用いる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(領域言葉の指導法)
 1人発表ができるように日程を組む。附属へお願いし、設定保育が出来るようにする。

(保育者論)
 学生が論点を整理できるよう、グループワークの後、論点を共有し、その後レポートを提出させる。新たな映像資料を用いて保育に対する考えを深める機会を提供する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

(領域言葉の指導法)
 附属幼稚園の設定保育は好評をえた。ただ、実施形態を確定させるのが遅くなったり変更したことがあった。

(保育者論)
 新しい映像資料は好評だった。自由課題の出来具合はやはり個人差が大きかった。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育者論	23Y	選択	67	78.7	7	10.8%	21	32.3%	32	49.2%	5	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「言葉」の指導法Ⅰ	24Y	選択	62	77.0	11	17.7%	18	29.0%	13	21.0%	20	32.3%	0	0.0%	0	0.0%
領域「言葉」の指導法Ⅱ	24Y	選択	8	92.4	8	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育者論	23Y	4.5	4.4	4.5	3.5	63.1分	4.5
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
領域「言葉」の指導法Ⅰ	24Y	4.6	4.5	4.7	3.7	61.6分	4.6
領域「言葉」の指導法Ⅱ	24Y	4.7	4.7	5.0	4.7	94.3分	4.9
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

グループワーク
設定保育
レポート

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（領域言葉の指導法）

附属幼稚園での設定保育については、より早い時期からお願いし、実施形態も早い段階で確定させたい。

（保育者論）

自由課題については、学生の力量差が大きくなる。優れた学生の取り組みを参考に出来るよう、グループワークをおこなう。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	松尾 公則
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

「ヒトと生物」は前年度は開講していないので成果はないが、来年度は受講生を増やす努力が必要であると思う。

「子どもと自然環境ゼミ」は14名という大人数でも例年以上の自然体験を経験させることができた。また、体験したことの発表の場である長崎特別支援学校でのカエルの授業やゼミ発表会も満足のものであった。課題としては、大人数であるため主体的に関わらず消極的な活動をする学生も見られたので、もう少し少人数でのゼミ活動にしたいと思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「ヒトと生物」は開講できるように努力したい。

ゼミナールでは、自然体験で新たな取り組みを計画し学生の満足度をより高めていきたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「ヒトと生物」は選択科目であるが、今年度は、多くの学生が選択したので開講することができた。保育園や幼稚園などの現場で使える「ドングリやダンゴムシ」などの身近な内容を教材として選び講義を展開していった。学生も講義に積極的に参加することで、満足度もかなり高くよい評価を得ることができた。

ゼミナールでは、最終的には6人という少人数であった。例年通りに多くの自然体験や特別支援学校でのカエルの授業を実施することができた。少ない人数のために他人任せにすることができず各人が責任持って活動していた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「ヒトと生物」は選択科目なので、選択者が多いといろいろな取り組みで講義内容を充実させることができる。しかし、毎年、少人数のため開講できなかったり数名を相手にすることになっていた。どのような人数であっても、学生に役立つ講義が実施できると思う。

ゼミナールは、6名という今までにない少人数のため各人に行き届いた指導が可能であった。今後も、少人数でのゼミナールになると思うので、同様に活動していきたい。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	23Y	選択	67	88.0	41	61.2%	20	29.9%	2	3.0%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	5	94.0	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
ヒトと生物	23Y	4.9	4.8	4.7	3.5	30.6分	4.8
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特記事項なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「ヒトと生物」は選択科目なので、選択者の人数次第で講義内容の工夫を試していきたい。

「子どもと自然環境」ゼミの活動では、材料は前もって教員側で採集し準備していたが、次年度は、実際に現場に赴き材料を得る所から進めていきたい。現場で実際に使えるゼミ活動を目指す。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	三原 ミヨ子
---------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

乳児保育Ⅰでは、PowerPointによるスライド、配布資料を用いて講義、乳児の保育・遊びと生活についての視聴覚教材を用いて授業を実践した。学習目標、単元テーマに沿って進め、レジュメのポイントとなる内容の説明や空欄に重要語句を書き入れる形式とした。また、復習問題や小テストを定期的実施。子どもの権利や最善の利益に関して、問題解決技法として、ワークシートを用いて、個人・ペア、グループワークによる協働学習の取り組みを行った。

子どもの健康と安全では、講義と実技演習を展開。個人ワークによる保健だよりの作成、年間保健計画作成は、グループワーク活動とした。乳幼児の救急蘇生法の実技演習をCPR用の乳児用マネキンを用いて一次救命処置の方法、窒息や事故への対応について説明し、技術指導を実施。

子育て支援では、授業計画に沿ってスライドや視聴覚教材を用いて講義や演習を実施。単元ごとに事例問題やグループワークを取り入れ、子育てに悩む保護者への支援や虐待のサイン、気になる子どもへの関わりなど学生参加型の活動の取り組みを実施。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

乳児保育Ⅰでは、主にスライドを用いて説明を行った。新生児の特徴について理解を深めるためにモデル人形を用いて説明を加えたり、学生がイメージしやすいよう動画や視聴覚教材を選択しながら展開した。ワークシートへの記入やペア、グループワークによる協働学習時も活発な意見交換が図られていた。グループ編成も検討しながら、学生が積極的に学ぼうとする授業内容をさらに考えていく。

子どもの健康と安全では、感染症と保健対策、子どもの体調の変化や観察の仕方など、スライドを用いて説明を行っているが、専門用語や重要語句について、もっとかみ砕いて説明し、理解を深めることが必要である。乳幼児の救急蘇生法では、グループに分かれて実技演習を行った。各自、怪我や事故への対応、小児の救急処置の仕方に関心を寄せ、真剣に取り組む姿がみられた。実技に自信のない学生もおり、子どもの生命を守るための技術が身につけられるよう指導の強化を図る。

子育て支援では、単元ごとに事例問題やグループワーク活動を取り入れ、子育てに悩む保護者の支援やかかわり方について考え、他学生との意見交換や学びの共有ができ、ジグソー教育や学生参加型の学習の取り組みは効果があったと考える。社会保障や子育ての支援体制についての事前学習を検討し、家庭学習を踏まえたうえで授業を展開し、理解を深められるよう取り組んでいく。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子育て支援	23Y	選択	67	82.2	25	36.8%	29	42.6%	9	13.2%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
乳児保育Ⅰ	24Y	選択	62	84.3	30	48.4%	18	29.0%	6	9.7%	8	12.9%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの健康と安全	24Y	選択	62	80.3	18	29.0%	18	29.0%	12	19.4%	14	22.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学習時間	全体的な満足度
子育て支援	23Y	4.8	4.7	4.7	3.5	29.5分	4.7
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*

ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
乳児保育 I	24Y	4.7	4.7	4.8	3.9	45.0分	4.7
子どもの健康と安全	24Y	4.7	4.7	4.8	3.9	42.9分	4.7
保育実習指導 I	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習 I	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

子育て支援の事例問題（家庭学習）について質問に来た学生への対応。（実習園によって実習日と授業日が重なり、受講できていない学生への授業内容の説明と課題について補足説明）

乳児保育・子どもの健康と安全の課題学習に関して、質問に来た学生への説明（記述内容の仕方、考察の仕方等）と対応

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・講義形式の授業では、学生の理解度、習熟度を考え、スライドや配布資料の内容を検討して作成する。
- ・ICT, Googleclassroomをもっと活用して、課題の出題や添削、学生へのフィードバックを効果的に実施する。
- ・全体的な満足度は高いが、学生の理解度の数値の上昇を目指し、授業の中で発問の工夫、説明や指示の仕方を明確にして、学生の理解力が高められるような学習活動の取り組みができるよう指導にあたる。
- ・乳児保育 I の講義を踏まえ、2年次の乳児保育 II の実技演習に向けて取り組めるよう、予習課題や手順の確認、保育の技術のポイントについてきちんと押さえられるように学ばせる。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	本村 弥寿子
---------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業に対する満足度は高いものの、知識の習得を求める科目のC評価の割合が高い。知識習得が課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

全ての科目において、S・A・B評価取得者が80%以上となるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

領域「環境」の指導法Ⅰ及びカリキュラム論Ⅰの試験を小テストとして翌週に実施し、毎週において知識の定着を図る。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

領域「環境」の指導法Ⅰでは、約85%がS・A・B評価を獲得することができた。カリキュラム論Ⅰにおいてはまだ60%ほどにとどまっている。保育の計画及び評価について、知識の定着をいかに図るか工夫が依然として求められている。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	10	91.8	8	80.0%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「環境」の指導法Ⅰ	24Y	選択	62	81.3	9	14.5%	34	54.8%	10	16.1%	9	14.5%	0	0.0%	0	0.0%
領域「環境」の指導法Ⅱ	24Y	選択	21	90.9	14	66.7%	5	23.8%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論Ⅰ	24Y	選択	62	72.5	1	1.6%	13	21.0%	25	40.3%	23	37.1%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論Ⅱ	24Y	選択	62	83.3	10	16.1%	36	58.1%	12	19.4%	4	6.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
領域「環境」の指導法Ⅰ	24Y	4.8	4.7	4.7	3.7	45.3分	4.7
領域「環境」の指導法Ⅱ	24Y	4.7	4.7	4.7	3.6	66.3分	4.6
カリキュラム論Ⅰ	24Y	4.7	4.7	4.8	3.7	60.0分	4.7
カリキュラム論Ⅱ	24Y	4.8	4.8	4.8	3.9	88.9分	4.7
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

グループでの保育計画立案及び保育準備・実践を行い、各グループの保育についての討議を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

全ての科目における満足度とS・A・B評価取得者を、80%以上となるようにする。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	山中 慶子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度から「領域『表現』の指導法」を担当している。講義は教科書を基本に行うが、実際の子どもの映像や各自のエピソードを題材にすることで、より具体的に子どもの「表現」について検討することができたのではないかと思います。

今年度は、Ⅰ・Ⅱと科目が分かれるため、連続性をもたせつつ、内容を分けていくことが課題であった。

「子どもの絵と製作Ⅰ」では、毎年グループでの壁面製作を行っており、計画的に進めることができています。今後、より「子どもの参加」を意識するような授業構成が課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「領域『表現』の指導法」は、Ⅰ・Ⅱと科目が分かれるため、連続性をもたせつつ、内容を分けていく。

「子どもの絵と製作Ⅰ」では、学生が、「子どもの参加」を意識するような授業構成を行っていく。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「領域『表現』の指導法Ⅰ」では、教科書のエピソードを中心に、子どもの行為や発語から「意味」を見いだすことに主眼を置いた。自身の子どもの頃のエピソードから、「子どもの想い」「保育者の願い」についてグループで話し合う時間を多く設けた。

「領域『表現』の指導法Ⅱ」では、「児童文化財」について講義を行った。後半は、一人ひとり児童文化財を作成し、グループ内で「演じる」ことを体験し、考察を行った。

「子どもの絵と製作Ⅰ」では、造形分野における子どもの発達について講義を行った。また、グループで「子どもの参加を想定した壁面」の制作を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

担当科目の評価（内容・レベル・教え方・意欲）に関しては、4.8～4.9の高評価である。しかし、学生の理解度は3.6～4.1のため、「何が理解できて、何が理解できていないのか」について把握する必要がある。学生の理解を確認しながら進めることを今後の課題とする。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	23Y	選択	66	87.0	22	34.4%	36	56.3%	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
教育実習	23Y	選択	65	84.6	4	6.3%	53	84.1%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習	23Y	選択	67	84.4	26	40.0%	19	29.2%	13	20.0%	7	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	23Y	必修	0	84.4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法Ⅰ	24Y	選択	62	83.3	23	37.1%	18	29.0%	16	25.8%	5	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法Ⅱ	24Y	選択	43	84.0	14	32.6%	19	44.2%	8	18.6%	2	4.7%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの絵と製作Ⅰ	24Y	選択	45	86.5	14	31.1%	25	55.6%	6	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習Ⅱ	23Y	*	*	*	*	*	*
教育実習	23Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習	23Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23Y	*	*	*	*	*	*
領域「表現」の指導法Ⅰ	24Y	4.8	4.8	4.8	3.8	43.7分	4.7
領域「表現」の指導法Ⅱ	24Y	4.9	4.9	4.8	4.1	69.0分	4.8
子どもの絵と製作Ⅰ	24Y	4.9	4.9	4.9	3.6	34.5分	4.8
保育実習指導Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	24Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

図工室での席は、必然的にグループの分かれるようになっているので、グループワークの実施率は高い。ほとんどの科目でグループワークを実施している。
また、作品を鑑賞し合ったり、絵本の読み聞かせや児童文化財の実演を他者が評価する場を設けることで、学生の多様な学びに繋がっていることが推察される。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

より効果的なグループワークの実施のために、「自由な組み合わせ」「教員が指定」「くじびき」など、授業内容によって検討をしていきたい。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	秋山 寛治
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

一回の講義内容が多すぎ、消化不良であったかも知れません。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

双方向の授業進行
なぜ?を考える授業
新しく正しい情報を提供する

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

毎回、議論をする時間を設ける

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

講義内容の充実
対話は不十分であった

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動生理学	23S	選択	32	97.9	31	96.9%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
運動生理学	23S	4.5	4.5	4.5	3.7	30.9分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生の希望を反映した講義内容

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2020年度～2023年度の学生による授業評価アンケートの結果について検証したところ、「内容やレベル」4.5→4.5→4.3→4.7、「教員の教え方」4.6→4.5→4.7→4.6、「学生の学習意欲」4.3→4.1→4.3→4.4、「学生の理解度」4.5→4.2→4.4→4.3、「全体的な満足度」4.5→4.3→4.6→4.6であった。ポイントの増減は小数点以下であり、これは受講生全体の人数の多寡に影響されることが考えられるので、各質問項目ごとに2022年度と2023年度の結果を比較し検証を行った。まず、教員の授業運営について「内容やレベル」は「十分適当であった」と回答した者の割合が約10%増加し、「ほぼ適当であった」と回答した者を合わせると90%を越えていた。「教員の教え方」の満足度については大きな変化は無く「十分満足できた」「ある程度満足できた」と回答した者の合計は90%を越えていた。次に、学生の取り組みについては、「学修の取組」について「十分に取組んだ」「ある程度取組んだ」と回答した者の合計に大きな変化は無く80%を越えていた。「授業の理解度」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計は増加しており90%を越えていた。「授業外学習時間」は前年度48.3分から今年度37.9分となっているが、授業冒頭の振り返りで復習ができていたため授業外学習時間が減ったとも解釈できる。この点は更なる検証が必要である。他方、授業評価アンケートにおける質問12「授業の感想・意見・要望」において「前回の講義に関しての振り返りの質問の様なものを取り入れていて、復習しながら講義に参加できた」「前回授業の復習問題を出して下さい、しっかりと復習できました」「授業前に前回の授業の復習をすることが良いと思いました」といった定性データが得られたことは良い点(成果)であったと考える。一方で、再試験対象者があったので、次年度引き続き、再試験対象者をできるかぎり出さないよう努めたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ①授業の質を維持するとともに質の向上を試みる
- ②授業外における自律的且つ主体的学修を促す仕組みをつくる

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

ただ単に授業外で取り組む課題を課せば授業外学修時間は増えるがそれでは意味が無い。学生の主体的な学修を促すことが重要である。そこで、学生が主体的且つ自律的に学修へ向かう姿勢を醸成すること、並びに学修内容の興味喚起を目的として、他の科目及び栄養士実力認定試験との連関を意識した授業を展開した。具体的には、食品学Ⅰ、食品衛生学、食品加工学、調理学、生化学、基礎栄養学との連関を意識した。授業の自己点検・評価として授業期間の中間時点(11/27)に「学生による授業改善アンケート」を実施し、得られた結果を踏まえて後半の授業改善に活用した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

2020年度～2024年度の学生による授業評価アンケートの結果について検証したところ、「内容やレベル」4.5→4.5→4.3→4.7→4.5、「教員の教え方」4.6→4.5→4.7→4.6→4.4、「学生の学習意欲」4.3→4.1→4.3→4.4→4.4、「学生の理解度」4.5→4.2→4.4→4.3→3.5、「全体的な満足度」4.5→4.3→4.6→4.6→4.4であった。ポイントの増減は小数点以下であり、これは受講生全体の人数の多寡に影響されることが考えられる。2024年度授業評価アンケートについて、各質問項目ごとに検証を行った。まず、教員の授業運営について「内容やレベル」は「十分適切であった」と回答した者の割合が約10%増加し、「ほぼ適切であった」と回答した者を合わせると100%であった。「教員の教え方」の満足度については「十分満足できた」と「ある程度満足できた」と回答した者の合計は100%であった。自由記述においても「テストに出るところやここは出さないよなどと教えていただいたのでノートにまとめやすかったです。また、定期試験のポイントのプリントもつくっていただいととても勉強しやすかったです」「テスト前に対策プリントなどがあり勉強がしやすくテスト勉強が捗りました」という意見をいただいた。次に、学生の取り組みについては、「学修の取組」について「十分に取組んだ」「ある程度取組んだ」と回答した者の合計は100%であった。「授業の理解度」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計69%となり2023年度と同結果を下回った。「授業外学習時間」は前年度37.9分とほぼ同じ37.5分であった。他方、授業評価アンケートにおける質問12「授業の感想・意見・要望」において「前期のような授業じゃなく、今回の後期のような授業の仕方の方が寝ないし、勉強しやすかったです」「授業は、わかりやすく勉強しやすかったです」といった定性データが得られたことは良い点(成果)であったと考える。一方で、再試験対象者があったので、次年度引き続き、再試験対象者をできるかぎり出さないよう努めたい。また、本試験の得点分布を踏まえると、良いテスト設計ができたと考えられる。

- 【まとめ】
- 授業外学習時間が低かった(改善課題)
 - 学生の理解度が、前年度よりも低くなった(改善課題)
 - 学生の満足度は高かった(成果)
 - 良いテストを設計することができた(成果)

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅱ(食品の機能)	24S	選択	27	67.9	1	3.7%	5	18.5%	7	25.9%	13	48.1%	0	0.0%	1	3.7%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
食品学Ⅱ(食品の機能)	24S	4.5	4.4	4.4	3.5	37.5分	4.4

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇄教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行ができた。オフィスアワーは実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 授業外学習時間を増やすための工夫をする
2. 学生の理解度を向上させる
3. 学生の満足度を高いレベルで維持する
4. テスト設計については今年度の水準を維持する

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	大串 祐子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2 クラス合同の授業であるが今年度はアクティブラーニングを取り入れ生徒の興味を引き出し知識の定着を図りたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

事例検討やグループワークを通して個々の家庭に応じた支援を考察する。
 学生に自ら考える機会を与え、その考えを言葉にすること、また、他の学生の考えを聞き、考察を発展させる経験を積ませたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

教科書に出てくる事例について、学生に順番にあて、声を出して読むことにより身近に感じてもらう。その際、読むのが苦手な学生は断っていいことを知らせておく。机の配置が4から6人のグループを作るのは困難であったため、隣同志で話し合ってもらい形式とした。話し合った内容を発表し、家庭支援の個別性を学びさまざまな家庭のありようを受け入れる力を養う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

結果として2人で話し合うこととなったため、発言の機会は確保された。一方で意欲の低い数組がリアクションペーパーなどで明らかになった。
 個々の学生に、現在の家庭支援の複雑さや家庭の抱える悩みの深さは学んでもらえたと思う。また、課題を抱える家庭や子どもが一番困っていること、批判でなく共感とその解決の糸口になること、また課題に取り組むときには保育者同士の連携、他機関との連携が必要であることは学生の中に定着したものと思う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子ども家庭支援論	24Y	選択	62	86.2	25	40.3%	24	38.7%	12	19.4%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子ども家庭支援論	24Y	4.5	4.5	4.6	3.9	21.8分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

先に記載のとおり、授業の中で事例を順番に声を出して読み、解決法について2人組で考え、話し合い、授業の中で発表し、考察を深めた。
 オフィスアワーは週1回の授業であったためか利用はなかった。学生は、質問をリアクションペーパーに書いてきたので答えながら学生に戻した。また、多い質問等は授業の中で取り扱った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生に、この教科をより身近に感じてもらうために、何らかの方法で子育て支援の現場を見る経験を提供する。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	太田 久美子
---------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度は、成績分布をみると、一昨年同様、S評価、A評価及びB評価を合わせて7割を超え、C評価の学生数が減少しており、一見すると非常に喜ばしい結果となっている。もっとも、定期試験の問題は昨年同様、例年より容易なものであり、内容にかかわらない基礎点等も与えていること等などから、学生の理解度が例年よりも増したと安易に言うことはできない。講義中の学生の反応は、積極的な学生とそうでない学生とで大幅に違いがあったように感じている。しかし、講義中積極的に発言等を行っていない学生であっても良好な成績をおさめているため、講義中の学生の反応と理解度とは比例しないものと考えざるを得ず、やはり、学生の理解度をどのようにして押し量るべきか、悩ましいと感じているという所感であった。アンケート結果については、例年よりも「難しいがわかりやすかった」という声はずいぶん増えており、具体例を挙げた説明が功を奏したものと感じている。他方で、「早口」という感想も見受けられたため、次年度以降、さらに工夫を重ねることとしていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度も引き続き、以下を目標として、具体的な例を挙げながら講義を行うことを目指す。
 (1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
 (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。
 また、早口にならないよう、できる限り気を配る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 昨年度同様、基本的には、毎回、講義の際にレジュメを配布し、講義形式で授業を進めた。もっとも、なるべく学生への問いかけを多くして、学生自身に考えてもらう機会を設けるよう工夫した。また、初回授業では、日本国憲法についてのイメージをもってもらいやすいよう、パワーポイントを利用した説明なども取り入れた。第2回以降も、できる限り、具体的で身近な事例を挙げて説明し、より理解してもらいやすくなるよう努めた。
 (2) 日本国憲法の問題について興味を持って考えてもらうため、関連する映画を観てもらおう等工夫した。もっとも、講義日程の都合や、各項目の説明に割く時間との割合等に鑑み、映画の本数は、昨年度同様、2本のままとした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

成績分布をみると、昨年同様、S評価、A評価及びB評価を合わせて8割を超え、C評価の学生数が減少しており、一見すると非常に喜ばしい結果となっている。もっとも、定期試験の問題は昨年同様、例年より容易なものであり、内容にかかわらない基礎点等も与えていること等などから、学生の理解度が例年よりも増したと安易に言うことはできない。講義中の学生の反応は、積極的な学生が少なかったように思うが、講義中積極的に発言等を行っていない学生であっても良好な成績をおさめているため、引き続き、具体例を意識した授業を行っていきたいと考えている。アンケート結果については、例年よりも「難しいがわかりやすかった」という声はずいぶん増えており、具体例を挙げた説明が功を奏したものと感じている。他方で、「難しい」という感想も見受けられたため、次年度以降、さらに工夫を重ねる所存である。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本国憲法	23S	選択	0	86.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法	23L	選択	1	88.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法	23Y	選択	67	80.4	8	12.3%	31	47.7%	16	24.6%	10	15.4%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
日本国憲法	23S	*	*	*	*	*	*
日本国憲法	23L	*	*	*	*	*	*
日本国憲法	23Y	4.0	4.0	4.3	3.1	37.5分	4.0

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義後にオフィスアワーを設けており、講義内容に関する質問を受ける機会も複数あった。ただし、積極的に質問してくれる学生は少なかったように思う。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度も引き続き、以下を目標として、具体的な例を挙げながら、よりわかりやすい講義を行うことを目指す。

- (1) 日本国憲法や法律に関心を持ち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
- (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。

また、早口にならないよう、できる限り気を配る予定である。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		大町 福美									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>コロナウイルスへの対応も緩和し、座席が自由になったことで、適度な距離感とコミュニケーションの取り方が課題であった。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>授業内の聴くとき、見るとき、話し合うとき、活動するときのメリハリをつける。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>一定の距離を保ちつつ自由に着席。歌唱はしない。華道教授の生け込みを少人数ずつ間近で拝見し、技を感じる。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>少人数になったことで、より間近で生け込みを見ることが可能となった。生け花が難しいものではなく、より身近にできるものだと感じて頂けたと思う。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	23S	選択	16	83.2	3	18.8%	9	56.3%	4	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	24L	選択	0	83.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本文化概論	23S	4.8	4.9	4.9	4.4	35.6分	4.9									
日本文化概論	24L	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>実技(自由化生け込み)の際に友人と学び合い、教え合い、高め合う姿が見られた。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>欠席後のフォローを忘れないようにしていきたい。実技をより充実させるための授業展開を図りたい。</p>																

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	尾崎 好子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

前回、全体的な満足度5.0を頂き、受講者の皆様の講義における集中力や熱意が素晴らしかったため、講義を予定通り終わらせることができました。
 集中講義という講義形態のため、こまめな休憩を入れたことがよかったように思う。
 課題としては理解度、満足度の維持とわかりやすい講義を目指すことであった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- (1) 分かりやすく見やすい板書を心がける。
- (2) 聞き取りやすい声、発音を心がける。
- (3) 学習達成度を確認しながら全員が習得できるように講義を行う。
- (4) 1人も置き去りにしない講義を心がける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

- (1) レセプト作成方法を確認し、プリントごとに要点を解説した後それぞれ実際に書いてみる、を繰り返した。分からないことがあれば聞きに来るように伝え、聞きに来た疑問点やよく間違える箇所については全体にアウトプットした。
- (2) 試験出題範囲でケアレスミスをしやすい箇所など、実戦でも気を付けなければならない箇所について繰り返し説明した。
- (3) 大きな字を心がけ、きれいな板書を心がけた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は全員が課題を満点で終わることができた。
 資格取得を目標にしているクラスなので集中力が高いが、適度に休憩をはさむことを意識し、短期でしっかり学べるように工夫した。
 課題としては理解度5.0を目指すよう講義をかみ砕きながら受講者一人一人に向き合いたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務論	24L	選択	5	#####	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医療事務論	24L	5.0	5.0	5.0	4.8	42.0分	5.0

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業中や休憩時間に受け付けた質問は全て講義の中で全員にフィードバックを行った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

- (1) 理解度を確認しながら丁寧に講義を進行する。
- (2) 資格取得を希望する受講生が全員合格できる難易度で講義を行う。
- (3) 講義を振り返る際に分かりやすい板書を心がける。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書										氏名		北山 千代子				
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
授業評価アンケートでは令和5年度同様、書くことが楽しくできたとか上達することができたと回答してあり、ある程度成果をあげることが出来たと思う。添削、注意事項も迅速、丁寧にするよう心がけた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 今年度も就職のための履歴書の書き方、生活書(年賀状、のし袋等)が自信を持って書けるよう指導していきたい。 (2) 提出物が遅い生徒の為、中間提出は継続したい。 (3) 生徒が負担になった書き写しのプリントを少し減らす工夫をする。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 課題プリント等学生が興味を持ち、楽しく向き合えるよう工夫をする。添削も励ましのコメントも細かく丁寧になりたい。 (2) 天声人語の書き写し(文章の構築、漢字の使用法)文字に関する知識、ペン・筆ペンの練習で「書く」ことの楽しさを教示したい。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
・授業内容は、十分満足という評価をいただき、ある程度学生達の字が上達して行って、成果が上がって良かったと思う。 ・今年度も創意工夫をして、文字を書くことに積極的に取り組み、上達するよう対応していきたい。																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と書	23S	選択	32	88.9	21	65.6%	8	25.0%	1	3.1%	1	3.1%	0	0.0%	1	3.1%
生活と書	23L	選択	13	88.2	12	92.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生活と書	23S	4.7	4.7	4.7	4.2	39.4分	4.7									
生活と書	23L	4.7	4.7	4.9	3.7	57.3分	4.9									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
・最後の授業の時に、卒業記念として、学生自身が俳句を考え、そのお手本を書き短冊に筆ペンで清書してもらい、雅印を押して、作品として仕上げたら喜んでた。色々会話も出来るので、今年度も是非継続したい。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) なるべく丁寧に添削し、褒めて、書くことの楽しさ、興味を持たせたい。 (2) 昨年同様、提出物の締め切りを2回に分け、提出物の遅延をなくしたい。 (3) 授業内容をもう少し詰め込みすぎないよう工夫する。																

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

ビジネスデータ活用2履修した生徒は1名を除いて資格取得することができた。
 授業では取得した技能を活かして、業務でどのようにデータを活用していけば良いかを学習した。
 習熟度によって、課題内容を変えるわけにはいかないため、技能レベルを見ながら適切なペア等を作って課題に取り組ませる事が必用だと考える。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

ビジネスデータ活用1で取得した技能結果を資格取得という形で明確にし、社会業務上でどのように活用していくのかを目標とする。
 活用方法を実感するために、職場見学をカリキュラムに入れていくことが必用。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

テキストに沿った授業をするだけでなく、社会人となったあとに実務で役に立つデータ活用方法を「仮説・検証・結論」を繰り返す事で学んでいく。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

個々人が得手不得手を自覚することが出来るようになった。
 課題としては不得意な部分に対して、どのように対処をしていくのかを考えられるようにしていく必要がある。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用2	24L	必修	13	83.1	2	15.4%	9	69.2%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスデータ活用2	24L	3.8	3.7	4.3	4.0	85.0分	3.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業事のタイピング訓練

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

生徒が自主的に学習できるような計画をたて、イレギュラーにも対応できるようにしていく。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	堺 蘭
---------------------	----	-----

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生たちの要望に応じ、テキスト以外の日常会話を積極的に練習させると同時に中国語の食文化等も紹介する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

聴力、会話力等を向上させる。短文の翻訳の練習も少しずつ取り組んでいきたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

できるだけ学生たちの勉強意欲を高め、日常会話練習を増す。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

中国語を勉強しながら、中国の色々な文化等も紹介する。中国語、中国文化の理解を深める。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	23L	必修	19	80.3	6	31.6%	8	42.1%	2	10.5%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
中国語Ⅱ	24S	選択	1	95.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語Ⅱ	24L	選択	1	90.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
比較文化	23L	3.6	3.6	4.6	3.6	90.0分	4.0
中国語Ⅱ	24S	5.0	5.0	5.0	5.0	30.0分	5.0
中国語Ⅱ	24L	5.0	5.0	4.0	5.0	30.0分	5.0

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	沢 みつ子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①学生による授業評価は上々であった。
 ②学生全体の関心度が高く、課題に積極的に取り組み、授業態度も積極的だった。
 ③レポートの内容は、今年度とりあげた課題も適切で良かったと思う。
 ④前年度と同様にコロナやインフルエンザの対策でグループワークや討議を避けがちであったので、グループワークの実施はこの科目での課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

目標
 ①実体験、タイムリーな講話による応用力を養う。
 改善計画
 ①豆テストの実施
 ②グループワークによる実習

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①グループワーク：話し方や聴き方、体験、敬語の練習をとりいれた
 ②講話：タイムリーな実例を用いて講話を行うことで、日常生活や国際的な約束事などにもマナーが存在することに関心を持つよう促した。
 ③討議：インフルエンザ等を考慮し、三人グループでの討議を実施できた。(ビジネスマナーについて関心を持つように、昨今の現場の取組み等がテーマ)
 ④自宅学習の促し：今年度の改善目標とした豆テストの実施は2回/8日で、毎回の授業で実施できたら、もっと良いと思う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度も、会食マナーの予定を入れられたことが大きな成果につながったと思う。
 事前の座学、高級ホテル訪問のための準備、実食、振り返りレポートの提出という段階をふみ、学生には知識の大切さがわかり、実体験を通して、振る舞いに自信が付き、思い遣る態度の基礎も養うことができたと思う。
 午後の2コマであったが、2名の居眠り癖の学生を除き、他の学生の授業態度が大変良かった(積極的)。
 学期末試験の結果は、学生の出来不出来がバラバラであった。知識の習得の確認を積極的にしなければいけなかったと思う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
マナーとホスピタリティ	24L	必修	13	77.8	1	7.7%	7	53.8%	4	30.8%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
マナーとホスピタリティ	24L	4.6	4.5	4.6	4.5	55.0分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度は授業無し

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	七條 和子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. 前年度は成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると、1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度が上がった。単元を絞って教えることが学生にはいい結果となっている。2) 薬学(薬理)基礎については健康を重視する社会情勢とコロナワクチンを始めとする薬学についての関心の高さが授業に対する興味につながっている。課題としては、学生の講義内容についてのレベルに個人差があるので更に改善が必要である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

6. 今年度の目標・改善計画としては、
 1) 病理学では、単元を減らしてまとめたわかりやすい言葉を使用して授業を行い、さらに質問しやすい場を作る。
 2) 薬学(薬理)基礎については、講義内容の簡略化を行い、理解を高めるため、小テストの改善よりは質問事項などを書いた紙の提出を優先して行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

3. 今年度の活動内容・方法
 1) 病理学の単元を一部減らしてまとめ授業を行った。教科書の病理写真の理解のために、身近な例を話して学生の考えを聞き興味が持てるようにした。
 2) 薬学(薬理)基礎の単元を絞って授業を行った。身近な例を講義内容に組み込み理解度を増すよう話した。学生から質問事項を書いてもらって回答した。小テストを行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

4. 今年度の成績課題としては、成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると
 1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度に応じて、単元を絞って教えることがよかった。
 2) 薬学(薬理)基礎については、健康を重視する社会情勢と一般用医薬品のドラッグストア等への普及で、免許習得のために薬学についての関心が高く授業に対する興味につながっているが、個人差がある。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
病理学	23S	選択	32	84.2	12	37.5%	6	18.8%	10	31.3%	4	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
薬学(薬理)基礎	23L	選択	7	88.1	2	28.6%	4	57.1%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
病理学	23S	4.4	4.3	4.3	3.8	49.7分	4.4
薬学(薬理)基礎	23L	4.1	4.4	4.6	3.9	72.9分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングおよびオフィスアワーについては今年度は実施していないので取り入れて見る必要がある。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

6. 次年度の目標・改善計画としては、
 1) 病理学では、単元を減らして病理像の解説とわかりやすい言葉で授業を行い、さらに質問しやすい場を作る。
 2) 薬学(薬理)基礎については、理解度に個人差があり、丁寧に教える必要がある。興味に応じて単元を追加して授業を行う必要がある。
 講義内容の簡略化、理解を高めるための小テストおよび質問事項などを書いた紙の提出を行う。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	関口 良嗣
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

後期の英語ⅡはS・Lクラスにおいては合同授業であったが少人数ということもあったが、全体的な満足度に0.4ポイントの乖離が見られた。授業外学習時間から判断するに、Lクラスの真剣度が感じられ、当クラスの意見は重視するに値する。また当クラスの理解度についても他クラスの生徒よりも0.3ポイント低い事実は手厳しいが、英語習得に対する期待値が高かった現れと受けとめ、次年度授業への新たな創意工夫の必要性を感じた。とはいえ、アンケート結果を総じて見てみると大きなばらつきは認められず、全体的な満足度や意欲度など一定の評価ができる数値が出た。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 隙間時間の有効活用を「10分ルール」と銘打ち、年間を通し習慣化させる。また自分の目標を毎週紙に書かせることにより、英語の授業で自己を見失うことがないようにさせる。
- (2) スライドとホワイトボードをうまく使い分け、別の視点、考え方を提案し、相乗効果で理解度を高める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・インターミッションはリクエストがない限り、実施は見合わせる。
- ・極力場所法による暗記を推奨するが、満点を取る達成感も大切なので丸暗記については目をそらす。
- ・点呼スタイルに米国式を取り入れる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

英語ⅡのYクラスにおいては各項目において昨年よりそれぞれ0.1ポイントの増加が見られた。対象人数を考慮すれば目立つ動きではないが、毎年ポイントを上げて行ければ。(24Sも同様)。
 24Lは今年はまだま0.6~0.8ポイントのアップが見られたが、人数から来るバラティリティであろう。(私的にはSの評価が上と想像していた位である)
 比較文化は前半に時代の流れと共に見た外国人目線の日本人論について講義したが、そのアプローチの必要性につきもっと説明すべきだった。全体的な満足度も他クラスと比べ0.5~0.9の差は重く受けとめる。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	23L	必修	19	80.3	6	31.6%	8	42.1%	2	10.5%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	24S	選択	6	79.3	1	16.7%	2	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	24L	選択	7	72.7	0	0.0%	1	14.3%	4	57.1%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	24Y	選択	62	79.3	6	9.7%	26	41.9%	26	41.9%	4	6.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
比較文化	23L	3.6	3.6	4.6	3.6	90.0分	4.0
英語Ⅱ	24S	4.8	4.7	4.7	3.2	50.0分	4.8
英語Ⅱ	24L	4.9	4.9	4.6	3.9	38.6分	4.9
英語Ⅱ	24Y	4.5	4.5	4.5	3.5	32.1分	4.5

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし。ただし個別に時間を合わせ、質問があれば対応する方針をとった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

より理解が進むように、どのように予習をすべきかを何度も伝える。
ただし予習する事が挫折に繋がらないように教材の読ませ方に注意を払う。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	孫 承言
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

韓国語 I で学習したハングルと文法を応用してペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う。教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、韓国語で質疑応答を行いながら、読む力・話す力を向上させることが課題だった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・韓国語の文字「ハングル」の読み書きを繰り返して練習した上で、会話に慣れる練習を積み重ねていく。
- ・ハングル検定5級とTOPIKの初級に合格できる能力を身に付ける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・文字カードを使って、ハングルの読み書きの練習を行う。
- ・ペアで会話の練習を行う。教師は発音・表現等の間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・授業終了後、課題を提供し、学生の自主学習を促す。
- ・定期的に小テストを行い、読む力を評価する。
- ・提出された課題等は採点し、コメントを付して返却する。
- ・授業中に行う臨時テストは、解答の解説を行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

数字の小テストの成績が基準に達しない受講者が多かったため、今後は復習をより徹底的に行ったり、ワークシートの課題を増やして、全員が数字の聴き取りが可能となるように努めたい。一方、「韓国語の会話が楽しかった」、「ペアで会話するのが楽しかった」、「韓国人と会話できてよかった」という声もあったので、授業中に頻繁にコミュニケーションを取ったり、ペアワーク、グループワークをもっと増やし、楽しく学習できるようにする。「比較文化」授業では、他国の文化について触れることで、多角的な視点で他者・他国を理解することができるように指導したい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	23L	必修	19	80.3	6	31.6%	8	42.1%	2	10.5%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語 II	24S	選択	2	56.3	0	0.0%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
韓国語 II	24L	選択	3	88.7	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
比較文化	23L	3.6	3.6	4.6	3.6	90.0分	4.0
韓国語 II	24S	4.5	4.5	4.5	4.0	45.0分	4.5
韓国語 II	24L	4.7	5.0	4.7	4.0	50.0分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・授業終了後、文字や文法のワークシートの課題を提供 (約10回) し、学生の自主学習を促している。提出された課題は採点し、添削して返却している。
- ・授業中及び終了後、単語や発音などの質問があり、単語の意味を説明したり、一緒に発音してみるなど、指導を行った。
- ・「比較文化」では、日韓の文化の近いについて調べる自由研究を通して理解を深めるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・復習を十分に行う。
- ・ペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う時、教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・レベルに合うワークシートを配布する。提出されたワークシートは添削して返す。
- ・ワークシートや小テストの解説を行い、直ちにフィードバックできるようにする。
- ・学習意欲の低い学生に対して、やや難易度を落とした復習課題を課する等の対応を取る。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	大安 貴佳子
--------------------	----	--------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

重要な項目、伝えたいことを絞り、どこを理解してほしいかを明確にすることができた。
学習内容を学生同士で共有し合うことで、知識を深められたのではないと思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「医学一般」は医療事務を目指す学生に対して行う講義であり、まずは医療に興味を持ち、専門的な知識ではなく、医療に関する様々な知識を幅広く持つてもらうことを目標として講義に臨んだ。
(1) 写真や動画資料をより多く取り入れ、イメージを持ちやすく講義に取り組みやすい資料作りに努める
(2) 病気や身体について興味を持ち、医療への抵抗感を軽減できるようにする

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

医学一般を令和5年度に受講した学生に比べ、控え目な学生が多く授業中も静かな印象であった。そのため、授業の中で学生に伝えたい内容に加え、実体験に伴う話を多く取り込み、医療という堅苦しいワードから日常生活という身近な場面に置き換えられるように配慮した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

最後の発表でも、なかなか自信を持って話せている学生が少ない印象であった。しかし、学生自身が自分の実体験を踏まえて話してくれることもあり、その点ではよかったように感じる。
また授業内容とは異なるが、毎年子宮頸がんのワクチン接種の啓発を行っている。1人の学生が、予防接種を受けたと報告してくれたことが個人的に大きな成果であった。命を守るために出来る行動についても、引き続き学生に伝えていきたい。
学生アンケートでは、講義の理解度が低い点が少し気になる。資料・伝え方でまだまだ改善点があるため、必要な専門用語は使いつつも、分かりやすく理解しやすい説明を心がけるようにしたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医学一般	24L	選択	12	91.8	9	75.0%	3	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医学一般	24L	5.0	5.0	4.6	4.1	42.5分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

最終講義で、参加型の講義を実施。
オフィスアワーは設けておらず、随時メールで連絡を取れるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 学生の理解度が上がるように、疾患の数を絞り、より身近な疾患を取り上げる。
(2) これまで以上に動画資料を取り入れ、抵抗感をなくせるようにする。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	當山 明華
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年は持っていません。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

本科目は、社会が抱える問題について心理学の知見を用い、人の多様性や社会との関りを理解し、問題に対しての解決策を探ることの重要性の理解し、最終的に生活に活かすことを目標としています。そのために、最初に自己の感情や思考についての理解を深め、その後他者や社会について理解を深めていきます。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

上記目標を達成するため、授業では最初に理論を学び、その後個人ワークおよびグループ・ディスカッション等を用いて自己と他者の基礎的知識を理解し、実践によって定着することを狙いとしていました。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケートの結果より、「自分がどういう人間なのかを知らながら授業を受けることができた」との回答があったため、ある程度本科目の目的が伝わったとホッとしております。理論の説明は内容的に難しいこともあったため、身近な例えで説明をしていましたが居眠りをする学生もいたため、今後はワークを増やし、さらに自分で考える時間を多く取りたいと考えています。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会心理学	24L	必修	13	92.2	9	69.2%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
社会心理学	24L	4.9	4.8	4.6	4.2	23.1分	4.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとして、毎回の授業で個人ワークを行い、約半分の授業でグループワークを行いました。オフィスアワーを取らず、毎回の授業後に書いてもらいフレクシオンペーパーに質問を書いてもらい、次の授業で回答をする形を取りました。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度があるのでしたら、上記課題に書いたように、自分で考える時間を増やすなど、理解度を増やす手立てを考えたいです。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	西田 聖子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

抹茶、和菓子（茶会が出る主菓子）未経験の学生に日本文化を体験させることができたと思われる。
抹茶茶碗を人数分準備することは不可能なため、洗面所で洗った茶碗には衛生的な布巾を各グループに準備した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

裏千家学校茶道（初級）を参考に作成した資料を基に講義を行う。
茶道点前を学び、自身でお茶を点てられるようになる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

講義は、毎回確認テストを行い、茶道の歴史・基礎知識・茶道のこころ等を学んだ。
茶道点前では、抹茶・主菓子・お干菓子を体験した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

講義内容は、テストを行うことで授業時間外の取り組みに繋がったと思われる。
茶道点前では、抹茶・主菓子・お干菓子を「初めて飲んだ、初めて食べた」の声も聞かれ、よい経験ができたのではないだろうか。
大まかではあるが、「益略点前」ができるようになったのことは、自身でお茶を点てられるという目標達成ができた。
使用した茶碗の衛生管理を引き続き行う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	23S	選択	16	83.2	3	18.8%	9	56.3%	4	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療事務総合演習	23L	選択	0	83.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	24L	選択	0	83.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
日本文化概論	23S	4.8	4.9	4.9	4.4	35.6分	4.9
医療事務総合演習	23L	*	*	*	*	*	*
日本文化概論	24L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度も衛生管理はしっかり行い、清潔な布巾の準備を行う。
こちらの道具の事ではあるが、季節を感じる道具を見たり使ったりできる茶碗などを準備してあげたい。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	林 徹
---------------------	----	-----

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

特段の課題はないものの、対面による実施ができるかどうか懸念される。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

少人数クラスが続いているので、できるだけいねいに指導したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

前年と同様に、アクティブラーニングの1つとしてゲーム対戦を体験させ、また学習成果を小演劇またはレポート課題で表現させる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

就職活動で欠席する学生もあったが、おおむね計画通りに実施できた。特段、改善すべき課題はない。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済学	23S	選択	0	83.2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
経済学	23L	選択	7	99.4	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
経済学	23S	*	*	*	*	*	*
経済学	23L	4.1	4.0	4.7	3.9	17.1分	4.3

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングの1つとしてゲーム対戦を体験させ、また学習成果を小演劇で表現させた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

受講者の表情をみながら寄り添う。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	春野 良三
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業で脱落者を出さないことが、目標であったが、今年度も脱落者出さず良かったと思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① 商工会議所の簿記検定で合格者を出すこと。
- ② 時間不足を補うため、課題などをだし家庭学習で頑張ってもらう。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① ひとつひとつの内容を、なるべきわかりやすく説明をしていった。
- ② 商取引における各帳簿の記入法や精算表の作成等はプロセクターを使用し説明した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

- ① 時間をかけて、説明していったので時間はかかったが、頑張って学生もついてきてくれたと思う。
- ② アンケートにより、学生も満足してくれた様で良かったと思う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学2	24L	選択	1	68.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
簿記会計学2	24L	5.0	5.0	5.0	4.0	90.0分	5.0

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特にありません

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今期で退職のためなし。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK : 検証)

(担当者が別)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

日本語の表現力(話す・書く・聞く)を養い、社会人としてのコミュニケーション力を高める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO : 実行)

各学生の特性と課題を確認したうえで、主体性を意識させた。
 話すことについては、発声練習、滑舌などの音声スキルと朗読などの表現スキルとを身につけさせた。
 書くことについては、賛否両論ある事例について意見を書き、説得力の有無について相互に評価させた。
 聞くことについては、ビジネス上の会話事例を材料にして正しい聞き取りや真意の掴み方を学ばせた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK : 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

15回の講座内容について振り返らせたところ、満足度は高かったようである。
 とくに書き取りや敬語などのベーシックな知識習得に加えて、実践的な対面スキルの習得ができたのがよかったと思う。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本語表現	24L	必修	13	85.2	3	23.1%	9	69.2%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
日本語表現	24L	4.5	4.7	4.6	4.2	46.2分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

15回のうち半分以上は、声を出させたり意見を相互に出させたりというアクティブなものであった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT : 改善、PLAN : 計画)

次年度も同じ手法で授業をすすめていくが、学生の課題認識によってあらたに組み入れるものが出てくる可能性がある。

令和 6 年度 後期 授業評価報告書	氏名	宮崎 美保
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるような授業を行うことが課題にあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 学生が興味を持ち、やってみたいと意欲的に取り組める課題の出し方を工夫する。
- (2) グループ活動を増やし、協力してやる内容でコミュニケーションをとり、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように導く。
- (3) アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目をせっていた。さらに目標を各グループで決めて、目標達成するためにどうすればいいか工夫して活動するようにした。授業の終わりに自己評価するようにさせた。
- (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

生涯スポーツAとほぼ同じメンバーが受講しており、1回目の授業から意欲的に楽しみながら取り組む学生が多く見られた。生涯スポーツBは、集団スポーツを実践し、学生同士がお互いに教え合いながら習得をしていく姿も見られ自ら工夫して活動できるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。1人1人にコメントを書くことで何に困っているのか把握でき、より良いアドバイスをすることができた。学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。運動が苦手な学生が楽しく活動する姿が見られ、授業改善・取り組みが少しずつ良い結果としてできた。さらに楽しく向上できる授業を目指す。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツB	24S	選択	20	73.7	1	5.0%	4	20.0%	13	65.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
生涯スポーツB	24L	選択	7	83.7	2	28.6%	3	42.9%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生涯スポーツB	24S	4.7	4.8	4.6	4.0	12.6分	4.7
生涯スポーツB	24L	4.9	5.0	5.0	4.3	21.4分	4.9

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っていることに気づき、実技中もその学生が所属するグループを気がけて声掛けをし活動を見守ることができた。実技が上手くできない学生と一緒に練習して導くことができた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
- (2) 意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (3) アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。
- (4) 学生の理解度を上げ、よりよい活動やスムーズな実技習得できるようにする。

令和 6 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	吉井 学
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

生化学 I では学習内容を理解している学生の割合が36%程度と思わしくない。理解とも未理解ともいえない学生が約60%であった。このように低い理解度結果は初めてであった。教え方に満足は41%であり、不満は18%である。総合評価は敵の判断が59%、不満があるとしたもののが12%である。
 ほぼ毎回の授業で質問や問題点を発見するためのアンケート(自由記述式)を回収し、次回には質問に対し応答していたがあまり効果がなかったものと判断する。
 生化学実験では生化学の用語も十分に理解し問題はなかった。、率先して実験に取り組む学生が増加した。理解度のについても82%が十分な理解している。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

生化学は栄養学方面でも医療系方面でも基礎的であり、重要な内容を履修する学問のため学習するための語句が初めてのものが多いため理解に時間がかかるものと考えられる。そのためQ&Aのアンケートは継続させて、学生の理解を深めていく。
 生化学実験では実験を通して生化学の原理原則や実験による証明法を理解するように指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

学生の質疑に対して必ず応答する。(授業外であってもメールでの質問はいつでも受け付ける)
 生化学実験では学生が疑問に思う事柄を引き出す工夫をする。学生が興味を持つ化粧品と栄養や人体の防御機構と栄養などについて実験を進める。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

理解度を高め、疑問を持つ意識をもたせる。
 疑問を待ったら調べる方法を教授することで自己解決できるように導く。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	23S	選択	31	63.8	1	3.2%	2	6.5%	4	12.9%	22	71.0%	1	3.2%	1	3.2%
生化学実験	23S	選択	32	75.6	7	21.9%	5	15.6%	7	21.9%	13	40.6%	0	0.0%	0	0.0%
生化学 I	24S	必修	27	69.5	1	3.6%	5	17.9%	9	32.1%	12	42.9%	0	0.0%	1	3.6%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
栄養士スキルアップ特講	23S	*	*	*	*	*	*
生化学実験	23S	4.2	4.2	4.4	3.6	119.1分	4.3
生化学 I	24S	3.4	3.4	4.3	3.2	33.5分	3.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

いつでもメールによる質問を受ける体制を継続する。
 質疑応答を増やす。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

理解度を高め、疑問を持つ意識をもたせる。
 疑問を待ったら調べる方法を教授することで自己解決できるように導く。